

## 春は虫の季節です！

春といえば、新しいことの始まりの時期です。新年度に新学期、そして桜をはじめいろいろな植物が綺麗な花をつける頃です。新潟県では雪解けとともに、山の味覚である山菜が楽しめる季節でもあります。花粉症でない私は、春という季節が大好きなのですが、博物館にとってはあまり喜ばしくない季節でもあります。それは、虫が発生しやすい季節だからです。春は植物が芽吹くように、虫たちも冬ごもりから目覚めてその活動を再開します。そして、その虫たちが館内によく侵入してきます。

博物館が虫に注意を払っているのは、もちろん保存している資料、文化財のためです。私たちの身近には、木材や紙類、衣類などを好んで食べるという生態を持つ虫たちがいます。虫も生き物なので何かを食べて生きているわけですが、時には文化財を食べてしまう「食害」を起こすこともあります。そのため、私たちはそうした被害をもたらす危険性を持った虫を「文化財害虫」として認識しています。当館では文化財害虫による食害を発生させないために、細心の注意を払いながら日々、資料や館内の保存環境の状態をチェックしています。とくに、春先は虫が館内に侵入しやすい季節ですので、4月にはIPM研修を開催し、館内で活動するすべての関係者に文化財害虫やカビ発生危険性について再確認する時間を設けています。そして、館内の異常を見つけた際には、資料保存担当の学芸員までその事象の報告をお願いしています。館関係者の皆様のおかげで、外から侵入してきた文化財害虫に一早く気付くことができたり、カビ発生危険性がある場所を知ることができたりしています。皆様のご協力に感謝です。担当者だけでは、広い館内全体を把握するだけで手一杯なので、多くの館関係者に協力していただくのが重要だと思います。春は今一度、保存環境や協力体制の見直しをしてみたいかがでしょうか。 (岩瀬春奈)

## 「歌川豊国と歌川派の浮世絵名品」を開催します

評判の遊女や役者、名所の風景から歴史、物語まであらゆるものを描き、江戸市民の間で大流行した浮世絵。その中心には常に「歌川派」の絵師達の活躍がありました。

歌川派の始まりは、江戸時代の半ば、西洋の銅版画から遠近法を学んだ「浮き絵」の画法で、浮世絵に遠景まで表わした歌川豊春です。寛政期になると歌川派中興の祖と呼ばれる歌川豊国が「見得」や「睨み」を決める役者を大写しにしたブロマイド風の役者絵や、粋な女性が登場する美人画で「歌川派」の評価を高めます。その豊国のもとに多士済々の門人らが集い、明治初期まで浮世絵ブームを牽引します。後に三代豊国を襲名する歌川国貞は、演技の瞬間まで捉えた役者絵や艶っぽい美人画で歌川派を最大派閥に導きました。役者大首絵「大当狂言の内」は文字通り大当たりし、流行りの着物を纏う女性達が集う美人画は、瞬く間に大衆の心を捉えました。歌川国芳は、豪傑や怪物が画面から飛び出さんばかりのダイナミックな武者絵を発表し、「武者絵の国芳」として世に踊り出ます。更に「天保の改革」で浮世絵に規制をかける幕府に対抗する「風刺画」で、大衆から絶大の支持を得ました。歌川広重は、人物画を主とする豊国や国貞とは別系統の歌川派として風景画で活路を開きます。「東海道五十三次」の大ヒットにより「風景画」は美人画や役者絵と対等なジャンルとなりました。最晩年の「名所江戸百景」は、大都市に発展した江戸の商業や祭礼といった社会的な活動も織り交ぜた名所絵の集大成とされています。そこで披露された俯瞰やズームアップといった斬新な構図や「ヒロシゲブルー」と呼ばれる藍色の彩色は、西洋の画家にも大きな影響を与えたとされています。当展覧会では歌川豊国を中心に、現存作品が稀少な開祖豊春を含め、「歌川派」の人気絵師の名品で「歌川派」の活躍を紹介します。彼らの浮世絵に描かれた江戸の人びとの生業、文化、風景に触れていただければと思います。

(田邊幹)



写真1 歌川豊国 「美人合」



写真2 歌川広重「東海道五十三図 川崎」

### ～編集後記～

当館の IPM 研修は、今年度は4月1日、4月5日、4月16日に開催しました。館関係者の皆様のほか、他館の希望者からも参加がありました。資料保存を改めて意識する機会になったかと思います。

令和8年度春季企画展「歌川豊国と歌川派の浮世絵名品」は4月25日から開催します。記事で紹介した作品を含め、180点余りの「歌川派」の浮世絵が展示されます。展示は6月7日までです。

「れきはく通信」は、新潟県地域史研究ネットワークニュースと同報のほか、月末更新となる新潟県立歴史博物館のホームページでもご覧いただけます。不定期配信とはなりますが、お楽しみいただけますと幸いです。ご意見、ご要望は新潟県地域史ネットワークニュース事務局までご連絡ください。

事務局メール [net@nbz.or.jp](mailto:net@nbz.or.jp)